

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月 日

協議会名:	北斗市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>北斗市は、面積397.44km²、人口44,302人（令和2年国勢調査）で、北海道の南端部に位置し、南部は函館湾、南東部は函館市、東部は七飯町、北部は森町及び厚沢部町、西部は木古内町に隣接している。平成18年2月1日に上磯町と大野町との合併により誕生したまちであるため、市街地が分散しており、郊外には人口減少が急速に進んでいる地域を抱えている。北斗市と函館市の結びつきは、経済面・生活面で強く、通勤・通学・通院等を目的とし、北斗市と函館市間の移動ニーズは高い。</p> <p>広域幹線（地域幹線系統）としての道南いさりび鉄道・JR北海道・函館バス（上磯線、大野線、郊外路線）を有効活用し、北斗市から函館方面への公共交通のアクセスの強化を図ることで、公共交通の持続性を確保しなければならない。</p> <p>既存の公共交通で補完できない地域については、自家用自動車以外の選択肢がタクシーのみとなっており、それを原因とした免許返納の躊躇が想定されているため、一定程度の人口が集中するも、広域幹線（地域幹線系統）・市内幹線（フィーダー系統）では補完できないエリアについて、買い物や通院といった日常生活に必要な移動を捉えた効率的な運行が可能な巡回ワゴンを導入し、新たなフィーダー系統としての運行を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく取組を進めているところである。</p>